

私たちが見る大日本植民地帝国—70年のときを超えて—

山田若央**、池野里彩**、石野里歩*、井上百佳*、海上弥生*、朴秀珍*、小代有希子*
 Wakao Yamada*, Lisa Ikeno*, Riho Ishino**, Momoka Inoue**, Yayoi Kaijo**, Sujin Park**, Yukiko Koshiro**
 *日本大学国際関係学部国際教養学科, **国際総合政策学科
 E-mail koshiro.yukiko@nihon-u.ac.jp

戦後70年たった現在でも日本統治時代を考えることは難しい。日本の支配下で植民地は近代化したかもしれないが、日本人と植民地の人々の間に差別があったのは事実だ。それ以上に私たちはその詳しい歴史を知らない。私たちのイメージの中では、皇民化政策のもと神道と日本文化の強制ばかりが強く焼きついている。しかし、日本の植民地支配は想像する以上に複雑で重層的な構造を持っていた。私たちは、植民地における神道と日本文化の受容について新しい角度からの視点を紹介する。さらに、外から見た日本統治観にどう対応するかも考える。



まるで西洋のような日本の植民地？

模倣した西欧建築と本物？

満州国には、白系ロシア人が持ち込んだ〈本物の〉西欧が存在し、日本人はそれを尊重した

1917年のロシア革命後日本に亡命した白系ロシア人は、約2000人。大日本帝国全体では、満州国53000人、朝鮮1000人、南洋170人。



左:ロシア人が建てた満州ハルビンのキタイスカヤ中央街
 右:日本人が建てた台湾総督府

19世紀末より満州鉄道交通の要地としてロシア人が開発したハルビンの街並みは、満州国の代名詞となった。



<1938年、修学旅行でハルビンを訪れた女子高校生の手紙より>

あこがれのハルビン
 露人の往来する、支那人満人、ニヶ国の人種
 往来する雑踏の中を私達が歩くのです。間違い
 そつす。アメリカが上海の国際都市を歩くよう。



ロマノフ村 - 満州の白系ロシア人の農村
 日本の満蒙開拓政策において、彼ら農民の
 暮らしは優良なモデルとしても注目された。



支配者日本人が支配される側に音楽、
 バレエ、西洋料理などを学んでいた。



釜山〜満州を走る列車の食堂メニュー

洋食：朝	八十五銭
昼・夕	一円五十銭
和食：朝	八十銭
昼・夕	一円二十銭

1930年代の京城で人気だったのは寿司や天ぷらでなく、日本がもたらした西洋風のカフェだった。



左はソウル歴史博物館に展示されている再現模型

若い男女の間ではカフェや喫茶店が流行した。
 人気メニューはアイスコーヒー
 ビールやたばこも楽しんでた。

食民地論？



京城で朝鮮の人々に広まった日本食はうどんやおでんのほか、オムライス、カレー、トンカツなどの『洋食』だった。



都会に住む富裕層にとって洋食は<モダン>の象徴で、優越感を感じる絶好の機会だった。

一方、貧困層の朝鮮の人々は米食が少なく、種類をはじめ雑穀や芋が食の中心だった。



朝鮮の人々が日本食を楽しんでいる写真が残っていない？！

食における日本化は進まなかった？ 勧めなかった？
 朝鮮の人々にとって日本文化より欧米文化のほうが魅力的に映った？

大東亜共栄圏の中の欧米

日本は<大東亜共栄圏>を掲げ英米を追い払おうとしたが、近代化の過程で取り入れた西欧文化を排除することはできなかった。むしろ積極的に西欧文化を取り入れ、親しんだ。

共存する神道

統治下において神道は必ずしも、元来ある形で信仰されたわけではなかった。神道を現地の民間信仰に融合させたり、あるいは現地の宗教を完全否定せず、共存したりした。

台湾に同化した『神道』?

台湾では必ずしも日本が望むようなかたちで神道は根付かず、むしろ神道は民間信仰に同化していたケースもあった。



民族衣装を着たアミ族

台湾の先住民族に対して、総督府は<野蛮な>祭祀儀礼を教化しようとしたが、次第に彼らの儀式を神社での祭祀に取り入れるようになっていった。



先住民の頭領が神社を参拝する様子



神社で儀式的ダンスを踊るアミ族



動物神の虎爺、神木など民間信仰も残った。

<天母教>

中治総一郎が1925年に創立。日本と台湾の共生の為に、総督府の許可を得て、天照大神と、台湾の媽祖 航海と漁業の守護女神)の信仰を融合した宗教を創立した。



媽祖



かつての天母教寺院 現在の三玉宮



親日サイパンにおける神道の運命



日本統治時代



スペイン・ドイツ統治時代



キリスト教伝来



太平洋戦争

皇民化政策として神道が普及。神社が建てられ参拝が強制された。

死の危機に際してチャモロ人が祈ったのは日本の神でなく、キリスト教だった。彼らが隠れた洞穴には十字架が掲げられていた。



チャモロ人は日本語を学び日本化したように見えた。



神道・仏教・キリスト教が共存する今



親日サイパンとはいえ、チャモロ人にとって神道は心の拠りどころにはならなかった。

外から見た日本統治

他の帝国主義諸国は日本をどう見たか、支配された国の人たちが今日本をどう考えているか、知る必要がある。アメリカと韓国の<日本批判>から、植民地統治を考えるには日本史だけでなく世界史の視点から考えないといけないことが分かる。

アメリカからみた日本統治 ~フィリピン~

1943年英米中が発表したカイロ宣言

日本国は、暴力及び強慾によって略奪したすべての地域から駆逐されるべし!』

朝鮮の人々は<奴隷状態>にあると日本を非難した。

アメリカ統治の矛盾 (1898~1942)



アメリカは自らを教師とみなし、<無知>なフィリピン人を教育しようとしたが、彼らの独立運動を弾圧し、60万人を虐殺した。そして、英語使用とアメリカ化を強制した。

日本のフィリピン統治 (1942~)



日本語教育や厳しい統制を行った。また、フィリピンを独立させたが、それは傀儡政権であった。アメリカ兵2000人、フィリピン兵と民間人2万人以上を死に追いやった『パターン死の行進』の<残虐性>を米軍は批判した。

カイロ宣言 (1943)

"I shall return." マッカーサー フィリピン奪還 (1945)

戦後アメリカ人が見たフィリピン人

白人文明への尊敬は残っているが、奴らの目に我々は、もはや無敵の主人でなく統治がしにくい!』



日本植民地統治時代の教え方 日韓比較



朝鮮の民間人が日本の軍人に虐待されている絵

日本の軍人によって強制労働される絵

刑務所で拷問される朝鮮人の絵

日本統治時代を教える韓国の子供向け絵本では、侵略者としての怖い日本を強調

子供たちの日本に対する否定的認識を育み、無条件の反日感情を深める。

韓国の絵本では、日本人の先生は恐ろしい存在

韓国の絵本



竹刀を持つて内鮮一休を教える日本人先生と、泣かれる朝鮮人学生

日本の教科書



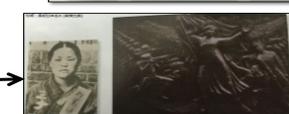
本館蔵のそのレリーフ。タラップの壁には、殺害された10歳で死した朝鮮少年の、その母の泣き顔が描かれている。

日本の教科書では、日本人の先生は怖いのか、悪人なのか見ただけでは一見わからない。

韓国の歴史教育は感情的な観点



独立運動を主導した罪で日本の軍人に逮捕される柳寛順 (ユグァンスン)のち獄中で亡くなった。



本館蔵のそのレリーフ。タラップの壁には、殺害された10歳で死した朝鮮少年の、その母の泣き顔が描かれている。

日本の教科書では、逮捕や投獄の様子がわからない。

日本の歴史教育は善悪を問わない

韓国の絵本では、柳寛順を逮捕する様子が生々しい。

上のような事実を学んでいくと、日本の植民地統治の理解は多角化する。「過去を賛美」することでも、その逆でもない姿勢で、植民地時代の様々な事実を掘り起こし、過去から目をそむけず、複数の視点から大日本帝国の姿を見る必要がある。西欧に追いつけなかった日本だからこそ分かる世界史のゆがみを考察、分析することで、かつて日本に植民地支配された人々と新しい未来を作っていく。そのような意識改革が若い世代から必要だ。